

平成26年度
市政レポーター(とまレポ)
活動報告書

平成27年11月

苫小牧市総合政策部政策推進室市民自治推進課

目 次

市政レポーター制度について	1
平成26年度市政レポーター活動実績	2
委嘱状交付式及び事業説明会概要	3
市長との懇談会（第1回）	4
市長との懇談会（第2回）	9
市政レポーターからの意見と市の考え方	13

附録

とまレポワークショップ開催結果

平成26年度市政レポーター名簿

苫小牧市市政レポーター設置要綱

市政レポーター制度について

市政レポーター制度は、市政に関する御意見や御提案をいただき、市政運営の参考とすることを目的としています。平成26年度は「情報発信」テーマとして、8人の市政レポーターの皆様から御意見や御提案をいただきました。

ワークショップにおける議論や特別研修への参加を通じて、市政レポーターの皆様からは様々な御指摘をいただきました。御参加いただきましたレポーターの皆様には、改めてお礼を申し上げます。

本報告書は、平成26年度市政レポーターの活動の取りまとめたものです。今後もいただいた御意見を基に、より良い市政運営を進めていきたいと考えています。

平成26年度市政レポーター活動実績

開催日	活動内容	概要
平成26年5月1日	委嘱状交付式 及び説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・市長からレポーターへ委嘱状を交付 ・事業概要の説明
平成26年6月23日	とまレポ活動 (第1回)	ワークショップ 「広報とまこまいについて」実施
平成26年10月23日	とまレポ活動 (第2回)	ワークショップ 「デジタルな情報発信について」実施
平成26年11月10日	市長との懇談会 (第1回)	レポーターと市長との懇談会を実施
平成27年1月28日	とまレポ活動 (第3回)	特別研修 「行政広報とシティプロモーション」 参加（※職員向け研修に参加）
平成27年2月	意見書提出	意見書の提出
平成27年3月18日	市長との懇談会 (第2回)	レポーターと市長との懇談会を実施

委嘱状交付式及び事業説明会概要

1 委嘱状交付式

- (1) 日 時 平成26年5月1日(木) 午後2時～午後2時30分
- (2) 場 所 市庁舎5階 第2応接室
- (3) 出席者 市政レポーター8人
- (4) 内 容
 - ① 市長から委嘱状を交付
 - ② レポーターの自己紹介
 - ③ 市長と懇談

2 事業説明会

- (1) 日 時 平成26年5月1日(木) 午後2時30分～午後3時30分
- (2) 場 所 市庁舎5階 第2応接室
- (3) 出席者 市政レポーター8人
- (4) 内 容
 - ① 制度概要及び活動内容について説明
 - ② 質疑応答

市長との懇談会（第1回）

1 日 時 平成26年11月10日（月） 午後1時～午後3時

2 場 所 市庁舎5階 市長室

3 出席者 市政レポーター6人

4 主な意見

(1) 市の情報発信について

①「広報とまこまい」について

ア 説明を聞いてじっくり広報を見たときに、すごく神経を使って作っていると感じた。ただ、広報を手にとって、じっくり欲しい情報を探すことが難しい人が多いのではないか。

イ 広報紙は、そもそもあまり開かれていないと思う。届いていることを知っていても、読むまでには至らなかったり、読むと、休日当番医などの便利な情報が載っているのに、そのことを知らない人が多くて、もったいないと感じる。

ウ 紙媒体での情報提供の速報性を上げるために、月1回の広報紙に加えて、月の中間でミニ広報紙を出すなど、頻度を上げてはどうか。

エ 中高年の世代にとっては、活字で確認するのが一番身近に感じる。また、カラーになったことは、周囲でも好評を得ている。

②フェイスブックについて

ア フェイスブックは、子育て情報や災害情報にターゲットに絞っていると説明を受けて納得した。

イ フェイスブックでは、新しい情報が掲載されると、古い情報が埋もれてしまい、ほしい情報を探すのに、手間を感じる。

ウ フェイスブックの記事について、説明文が長いと、表示の都合上、全文表示されず、「続きを読む」と省略されてリンク表示になってしまう。写真などが魅力的であれば、続きを読もうと思うが、なかなかそうはならない。

③ホームページについて

ア ホームページを携帯電話で閲覧すると、見つらい。また、最近ではスマートフォンで閲覧する人も多いと思う。携帯電話やスマートフォンでページを見るときに、画面をスクロールする必要があるが、情報がどこにあるか探しにくいので、画面を開いたときに大体分かるように表示されるとよいと思う。

イ アクセスしたい情報を探しやすくするのに、ワンクリックでアクセスできるように工夫が必要。

ウ ホームページのモバイルサイトは、デザインが地味。ホームページのデザインも派手ではないが、見やすい。モバイルサイトも、良くなるとよい。

④災害情報について

ア 災害時、市からの情報を見るためにホームページを利用する。災害自体はない方が望ましいが、災害時のホームページでの情報発信をもっと充実させてほしい。

イ さまざまなツールが活発に取り入れられている中で、いかに最新の情報をタイムリーに発信できるかが課題だと思う。特に、災害情報については、速報性を大切にしてほしい。

ウ 平成26年9月には、学校が休校になったもおかしくないほどの大雨災害があったが、情報がほしくて、ホームページを開いても、ほしい情報が載っていなかった。

休校情報が載っているとよかった。

エ 東日本大震災の際、携帯電話の電子メールが使えなくなったが、ツイッターがうまく機能したという話を聞く。災害時の情報が遅いと、特にもどかしく感じるので、苫小牧市もツイッターを活用してはどうか。また、長万部町のゆるキャラのように、とまチョップもITをうまく使って防災等の情報発信をしてはどうか。

オ 市には、公共の電波に乗る情報より一段深めた情報（例えば、臨時休校、避難箇所の避難状況、土砂崩れの箇所、冠水情報等）を発信してほしい。

カ 海、山の災害に備えて、全国で手本となるような災害システムを考えてほしい。

⑤その他、市の情報発信全般について

ア ホームページ、フェイスブック、とまチョップのブログ、それぞれ役割がきちんと分かれていてよい。また、世代によって見る媒体が違う。

イ 広報紙やホームページを通して、子どもたちが自分の住む街に関心を持てるように、例えば、広報紙の1ページを子ども向けに全部ひらがなにしたり、社会科の授業に組み込んだりしてはどうか。

(2) 今後の苫小牧の情報発信に期待すること

①SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用

ア 今後は、SNSの発信力を活用するとよいと思う。例えば、コスプレフェスタのようなイベントでは、苫小牧について何も知らない人が、イベントを機会に苫小牧に集まり、自分のSNSで情報発信することで、苫小牧の知名度も上がると感じた。

イ SNSは、一方的な発信というよりも、周囲が発信する形なので、良い面も悪い面も発信されるかもしれないが、利用者が考える苫小牧を発信してくれる方がよいと思うので、活用するとよいと思う。

ウ SNSは、発信力もあり、双方向で活用できるが、使い方を間違ってしまうといろいろと問題になってしまうという点もある。上手くルールを作った上で、活用していくとよいと思う。

②モバイル端末向けの情報発信について

ア 今の市のホームページは、スマートホンで見ると見づらい。また、携帯電話向けのサイトは、テキスト情報だけで少しさびしい。今の若い世代は、携帯電話でウェブサイトを見る人が多いと思うので、携帯電話向けの情報発信も少しずつ充実していったらよいと思う。

イ 子どもの安全のために、不審者情報を市で携帯のエリアメールなどを利用して配信してはどうか。

③広報紙について

ア 広報紙を読んでもらうために、広報紙に市に関するクロスワードパズルなどの懸賞問題を載せて、正答者に抽選でとまチョップのクリアフォルダーをプレゼントするなど、少し強引かもしれないが、工夫をしてはどうか。

イ 情報発信の仕方を1つに絞ることはできないと思うし、全ての市民に情報を届けるために、紙媒体は残ってほしいと思う。それ以外の新しいツールについては、どんどん勉強して、市にもいろんなチャレンジをしてほしいと思う。

④その他

ア 町内会同士の横のつながりを強めるためにも、市のホームページと町内会の情報発信が上手く連携していけば、市全体としての結びつきも強くなるのではないか。

イ 情報を知るためのツールとして市と市民の関係も大切だが、それ以上に市民と市民の関係を活用できれば、更にホームページやフェイスブックの幅も広がるのではないかと思う。

ウ 市民としては、市が提供するツールに関心を持って、できるだけ活用していこうと思う。また、もし使いにくければ、使いにくいと言う勇気を持っていきたいと思う。

エ ブルームボール世界大会の閉会式の手伝いをして、世界に苦小牧を知ってもらった良い機会だったと感じ、今後、このような機会がどんどん増えてほしいと思った。

オ 今インターネットでは、膨大な量の情報が蓄積されており、どこに何があるのかわからない状態なので、必要なものの場所がわかるような工夫が、今後デジタル系のツールの扱い方のポイントになると思う。

カ 使う人の身になって、特定の利用者のジャンルごとの専用サイトがあったらよいと思う。(例えば転入者向けの必要な情報を提供する専用サイト、高齢者向けサイトなど)

キ 年間のテーマを定めて、情報発信する取組をしてはどうか。例えば、ごみのポイ捨てや不法投棄に関する啓発など。

5 市長コメント (要旨)

(1) 災害時の体制について

少しずつは良くなっているが、災害時には、その都度反省すべきことがある。無駄なロスを省くため、マニュアルをベースにして様々な初動体制をとることが非常に重要であるが、マニュアルで想定していないような問題が起きたときに対応できない。

結果として、「スピード感がない」、「時差ができる」、「何のための防災ラジオか」

という指摘が毎回起きる。やはり、あらゆることを想定してスピード感を持って、的確な情報を伝えるために、例えば、防災ラジオでは、アナウンスの声質なども含めて、きちんと聴き手に伝わるように考えていかなければならないと感じている。

(2) 広報紙について

広報紙は、情報量が幅広く、読めばまちに関することのほとんどのことが分かるようにできているが、開いてもらわない限り、わからない。そのため、広報を開いたことのない人たちに、開いてみようかな、という気持ちが出るような広報紙をまず作らなければだめだと考えている。

現在、広報紙については、活字のフォントやボリューム等にも工夫をしながら作成しているが、提案のように子ども向けのページをつくることも、子どものときから広報紙の存在を近くさせるには、一案だとも思う。

(3) 新たなツールの導入について

パソコンやタブレット、フェイスブックやツイッターなど、新たなシステムが出てくる中で、行政が新たなことに取り組むときも、せいぜい4、5年スパンで変えていかなければ時代に合わなくなるという怖さがある。

限られたツールであっても、あらゆるチャンネルを通して市民の皆さん、より多くの人に知ってもらうことが大きな取組課題となっている。情報を知らなければ判断できない情報化社会となっている今、これからもいろいろとチャレンジしていきたいと思っている。

市長との懇談会（第2回）

1 日 時 平成27年3月18日（水） 午後1時～午後2時

2 場 所 市庁舎5階 市長室

3 出席者 市政レポーター5人

4 主な意見

（1）双方向性について

- ①（情報発信については、）一方通行ではなく、（市民と市とが）お互いに連絡を密に取り合えるとよい。また、苫小牧に住んでいて良かったと思えるとよい。
- ② 市民も、もっとしっかりと関心を持って、市からの情報を受け止めて、発信し返さないといけないと思う。「キャッチボール」を行うことが大切だと思う。ただ、時間的に余裕のない人もいることも確かであるので、情報の受信者と発信者の双方が、きちんとルールを理解して、行うことが大切。
- ③ 情報発信のポイントは、発信するより、いかに受信するか、皆の意見をどうやって吸い取るか、という点にあると思う。
- ④ 市政については、審議会、諮問委員会、まちづくりトークなどで意見を吸い上げる努力が見えるが、個人の意見を吸い上げるところがあればよいと思う。個人の意見を吸い上げることで、また新たな情報発信の材料ができるのではないかと思う。

（2）情報発信のための手段について

- ① 広報紙からの情報を頼りにしている。また、高齢者など、フェイスブックやパソコンが不得手な人もいる。耳からも情報を得られるように、苫小牧市でも、ラジオのローカル局を開設してはどうか。
- ② 市役所に電話を一本かければ、全部教えてもらえるので、自分たちの世代（60代）にとって、情報発信は十分されていると思う。逆に、情報を得る手段を使いきれていなかったり、どれを選んでよいかわからなかったりする。情報過多の部分制限することも必要だと思う。
- ③ 広報紙を読まない人がいるが、それは、見る必要がないからで、見なくても困

らない人もいる。様々な情報を求める人は、広報紙などを読む。また、市の情報発信には、様々なツールがある。その意味では、ある程度、発信された情報は、必要な人には届いているのではと思う。

- ④ 世代によって、考え方や求める情報が異なる。若者世代に対しては、ウェブなど様々な発信の方法があると思うが、自分たちの世代（60代）になると、文章を好む。
- ⑤ フェイスブックもウェブもよいが、活字をなくさないでほしい。また、言葉や漢字を大切にしてほしい。特に、「nittan」の表記について、見た目はいいが、日本語が損なわれる。「日胆」と書いても、「nittan」と書いても、わからないものはわからないので、もっと漢字を大切に、「日高胆振」でいいと思う。そして、わからない人は、「日高胆振」について調べればよい。
- ⑥ フェイスブックは、利用者の年代や、関心によって、閲覧する・しないの差が顕著。若い人も、その人の考え方によっては利用しない人がいるので、難しい。
- ⑦ 携帯、ホームページ、ブログ、広報紙、フェイスブックと、色々と媒体がある中で、それぞれを上手く使い分けると、同じ情報を流すのと、それぞれの良さを生かしていくことが大事だと思う。今ある媒体については、ちょうどよい具合で機能していると思う。増やしすぎると、どこに何があるのかわからなくなり、また、住み分けもあいまいになると思う。当然、将来新しいものが一般に普及した場合、市もそれに対応することは重要だと思う。
- ⑧ 情報発信については、フェイスブックなどSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）は、増やすと、煩雑になり利用されにくくなると思うので、あまり増やさない方がよいと思う。逆に、現在あるツールを知ってもらい、利用してもらうきっかけをつくるために、イベントなどでPRする機会を設けるのではないかな。
- ⑨ 災害時の情報発信に備えて、伊達市のように、市独自の放送局を持つてはどうか。自分自身も防災ラジオを持っているが、緊急時以外は何も放送されないので、面白くない。市の独自の放送局があれば、普段から防災ラジオを使うかもしれない。

(3) 現在の市の情報発信について

- ① 健康な人は、なんとか自分で情報を得られると思うが、障がい者や貧困状態にある人など、一番助けを必要としている人に、光が当たっていないのではないかな。

- ② 広報紙で人口が最後のページで取り上げられているが、もう少しわかりやすい場所に掲載してほしい。人口が減少している実態と、苫小牧の魅力づくりについて、上手に発信していくことで、人口減の解消につながるのではないかと。
- ③ フェイスブックを利用するが、子ども向けの情報だけがほしくても、どんどん他の情報が流れて、必要な情報を探すのが少し面倒に感じることもある。
- ④ 町内会からの情報発信が少なく、それぞれの町内会同士の連携がないのがもったいなく感じる。自治体全体が若い世代に移行していく中で、自分達の住んでいる地域について知ることができる媒体があるといいと思う。

(4) 市政レポーターに参加した感想

- ① 市政レポーターの活動を通して、徐々に広報の製作者側の意図が見えてきたことで、広報紙の見え方が変わってきた。この見方が市民に広がっていけば、市の情報発信は、広報紙で足りると思う。
- ② 研修を含めて、年代や性別によって異なる苫小牧についての感じ方や考え方を知ることができ、とても貴重な体験ができた。
- ③ 研修の中で、参加者の中から様々な案が出され、苫小牧にある可能性に気付くことができた。可能性を高めて、苫小牧をどんどん広報していけたらよいと思う。

(5) その他

- ① 自分たちの住んでいるまちについて知ってもらうためには、住んでいても、知っているようで知らないこともあるし、就職などで市外に出て行く人たちもいる中で、市の観点からも自分達のまちが良いまちだと次世代に伝えていくほかないのではないかと。
- ② 市の情報発信について興味をもってもらう機会として、ターゲットをしばり、例えば、中学校3年生を相手に、学校を回って市長懇談会のようなものを開催してはどうか。
- ③ 高齢者に対しては、振り込め詐欺に関する情報の発信が今特に必要だと感じる。チラシを配るだけでは足りなく、対象者に直接会って話をするのがよいと思うが、民生委員の人も、なかなか訪問しづらいと聞く。訪問しやすくするのに、敬老金などを民生委員の人に配ってもらうなどしたら、きめ細やかな情報を伝えられるのではないかと。

5 市長コメント（要旨）

（1）個人からの意見の集約について

個人ベースで意見をもらうために、「意見箱」を設置しており、今後、4か所から7か所に拡大する。今後、個人でも意見を出せることをいかに周知するか、努力していきたい。

（2）情報ニーズの考え方について

広報紙については、ある程度一定の年齢、一線を退かれた世代や、子育て中の親世代の二極化ベースで考えている。全ての人に必要な情報をまとめると、情報量が膨大になり、ある程度、ターゲットを絞らざるを得ないということがあり、試行錯誤している。

（3）まちづくりと子どもの市政参加について

子ども会議で「とまチョップ」が誕生した例もあり、まちづくり全体の中で、そのような子どもの提案をできれば具現化したいという思いはある。

また、中学校での懇談の場を設けることについては、昨年の法改正で、少し現状に変化はあったが、現在の法律上、市長は、教育の現場に立ち入りづらい立場にあるが、貴重な意見だと思う。

（4）FM局の立ち上げについて

苫小牧でも、7、8年前からFM局の立ち上げを企画している方もいる。

（5）敬老祝金と振込み詐欺防止について

敬老祝金については、対象者数の増加傾向などから3年前に見直しを行った。今も、そのあり方をいろいろ考えている。民生委員から敬老祝金を直接手渡してもらうのにも、大変な手間がかかる。しかし、振込み詐欺のような問題の防止について、少し行政としても考えていかなければならないと思う。

市政レポーターからの意見と市の考え方（要旨）

（※8人からの意見を項目別にまとめています）

○広報とまこまいについて

・60才代以上の人にとって、広報とまこまいは、市からの情報を受け取る手段として、一番の情報源となっている。手元に置いて、何度も読み返せることが大事だと思うので、紙面を明るく、字を大きく、読みやすくすることが最低条件だと思う。

・広報の特集記事に顔写真入りで掲載された際、周囲から「見たよ」「載っていたね」といった反応が少なかった。原因はさまざまに考えられるが、もし手元に届いていなかったり、見当たらない状態であるならば、早急に改善が必要だと思う。そのひとつとして、確実な全戸への配布方法を考えてほしい。情報の開示や市民の知る権利や機会は、個人が読む、読まないに関わらず、奪ってはならないと思う。

・広報の記事において、市の計画、行事、催し、募集については、簡潔に記載するに留め、詳細の問い合わせ先を明記して、読みやすくしてはどうか。市の主要施策や条例については、関心のある人が限られると思う。市民生活の向上、安全、コミュニティの醸成は、市民の一番の関心事であるので、明解に分かりやすく記載するべきである。

・広報紙には四季を感じさせる工夫が足りないと感じる。また、ページを開かせる工夫として、表紙に簡単な目次を載せるとよいと思う。また、人口は色々な方々に影響を与えるので、人口に関する記事をもう少し表の方に載せてほしい。

・広報は、意外に見ている人が多いと最近感じるがあった。もっと多くの市民の方に見てもらえる広報誌になることを楽しみにしている。

・広報紙は、全戸配布のルートが確立されているので、「社協だより」のように織り込むことでさまざまな紙情報を発信できることが強みだと思う。

<回答>

広報紙は全世帯に配布されますので、市民の皆さまへの情報をお届けする方法として、とても重要なものだとして認識しています。今後も、市民の皆さんが手に取って見ていただける工夫をしていきたいと考えています。

○ホームページ等について

・「デジタルな情報発信」と題して行ったワークショップが一番印象に残った。ホームページの利用目的は多岐にわたり、どんなことにもできるだけ分かりやすく対応できることが求められるが、利用者の力量や膨大な情報量などのために、ハードルの高い課題だと感じる。今後も、見やすさ、わかりやすさ、使いやすさを追求してほしい。

・ホームページには、災害時のきめ細かい情報発信を求める。市ホームページは、災害等の緊急時に、テレビ、ラジオ、ネットニュースではわからない町単位の最新情報を得る手段として、頼りになる存在であってほしい。

・デジタルな情報発信については、膨大かつ多様な情報を格納できる強みを活かし、タイムリーに編集格納することがポイントだと思う。市民のニーズも様々ではあるが、見ている人は見ているし、紙情報とは違い「双方向交信」ができるので、市民の意見を吸い上げるツールとして有効に使えると思う。

<回答>

ホームページは、広報紙と並んで大きな情報発信の方法と考えています。特に災害時などの情報を受け取るツールとして有効ですので、見やすくわかりやすいホームページになるよう運用していきます。

○情報発信のあり方について

・世代ごとに興味や閲覧する媒体が異なるため、それらを意識した上で、どのように情報を発信するかが課題である。

・情報発信においては、一番を探すことは難しく、また、発信者と読者がよい関係を築くことも難しいが、世代ごとの分野での発信が最も必要であり、かつ、見やすく、読みやすく、分かりやすいのが大切だと考える。

・今年度の市政レポーターのテーマは、苫小牧市の行政側が発信者となる「情報発信」であった。その中で受け手である市民や他の市町村の人々がどれだけ「主体的に」「自分の事」として感じてもらえるかが、一番大事だと思う。

・情報発信する側の意識として、聴き手に「わかる」→「感じる」→「共感する」→「感動する」ことを心掛けるようにすることを踏まえると、まず、「苫小牧に住んでよかった」と感じる人をどれだけ増やせるかが足りていないと感じる。

・ 苫小牧の魅力を自ら考え、自ら作り出すために、「良いところ、強み」や「悪いところ、弱み」をあらゆる行事や媒体を通して積み上げていくのに、出来るだけ多くの人を巻き込む仕掛けを考えるとよいと思う。

・ 現在の市の広報体系では、ホームページ、とまチョップブログ、広報誌、フェイスブック、市長のブログ、防災ラジオと様々にあり、それぞれに役割も異なっているが、接する媒体によっては、情報格差が生じる恐れがある。そのため、今後の情報発信においては、どの世代がどの媒体を見るかを意識しながら、差が生まれないようにする一方で、別枠で特設ページを割り切って展開していくことも必要かと思う。

・ 市民も、市からの情報を受けっぱなしにせず、返答をするなど、情報が上手くまわっていくよう希望する。苫小牧に住み、幸せを感じる市民が一人でも多いまちになってほしい。

・ 現在86ある町内会のうち、ホームページを開設しているのは2町内会だけで、町内会単位による情報発信の活動が弱いと感じる。大多数の市民にとっては、地域住民同士、近隣の町内会でどのような活動が行われているか把握できない状態である。そのため、ホームページ開設のためのスキルやプライバシーやセキュリティの知識を持った役員を増やし、ホームページを立ち上げるきっかけをつくることを目的に、既にホームページを開設している町内会や市の秘書広報課などが主体となって、講習会を開くことを提案したい。「誇れる〇〇町内会」というある意味で自慢合戦のようなものを積み重ねることで、やがて「誇れるまち苫小牧」の情報発信に繋がっていくと思う。

・ 情報発信の一つの形として、転入者に対して、苫小牧の自然や福祉サービス、交通事情、祭りの案内等を紹介したビデオを見せるかDVDを渡してはどうか。また、転入者から希望があれば、ボランティア等による「市御案内係」が、市役所展望階からまちなみや歴史について解説をする取組をしてはどうか。

・ ごみの問題に関心を持っており、広報紙や新聞で関連する記事についてしっかり読んでいる。結局、広報紙でも新聞でも、必要なことを発信すると、興味のある人や関心のある人には伝わっているものである。問題は、興味のある人たち（読者）の意見をどう吸い上げるかであると思う。読者（市民）の声を聞くことが、問題を知り、解決策を検討し、広報することにつながると思う。

・ 新聞の読者投稿欄で、市政に関する投書に対して、市が回答しているのを見る。一般メディアの有効活用とも言えなくはないが、市役所自体に、そのような仕組みがあっ

の方がよいと思う。ある商業施設では、住所・氏名・電話番号を明記した意見に対しては、必ず電話で返答があり、前向きな意見に対して、前向きに考えてくれると、信頼感が生まれる。個人の意見を拾い、応えていく誠意が役所や公務員に対する信頼につながると思う。

・振り込め詐欺は、個人情報に関連する高齢者の問題である。市も、民生委員の協力等を得て、敬老金の配布に絡めて、高齢者に振り込め詐欺防止に関する情報を発信するなどの工夫が必要だと思う。

<回答>

情報発信の方法として様々なメディアがありますので、それぞれの良さを生かし、効果的に活用できるように、市民のニーズを把握しながら、より良い情報発信に努めていきます。

○市政レポーターに対する感想・意見

・市政レポーターに参加するにあたり、就労中だと平日の日中は参加しにくいいため、平日夜間の時間の設定も検討してほしい。

・市政レポーターに参加して、苫小牧市の情報発信の方針を色々な視点から見て、考えることができた。また、他のレポーターの方の色々な切り口での意見を聞くことができ、大変参考になった。

・市政レポーターの活動を通して、苫小牧市は、まだ少しインパクトに欠けていて、魅力を十分に前面に出せていないと感じた。

・色々な年代の方との意見交換を通して、それぞれに苫小牧の良さや、今後に期待するあり方などが異なっていることを知り、とても貴重な体験ができたと思った。

・ワークショップでは、事前に付箋メモによる意見の提出があり、ゆっくり考えて提出できる点がよかった。ブレインストーミングの手法を意識して取り入れるとよりよいと思う。

・特別研修に参加して、市を盛り上げていくために、ターゲットを定めて、順序立てて広報することの重要性を知り、また、グループからも様々な提案が出されて、苫小牧の引き出しや良さを感じることができ、とても楽しく、わくわくした。知ってもらいたいターゲットや、見てほしいターゲットを明確にして、苫小牧に住んでいてよか

った！と思えるようなまちづくりや、楽しいまちだね、と言ってもらえるようなまちになるといいと思う。

<回答>

貴重な御意見をいただき、ありがとうございます。

とまレポの皆さんとワークショップを通じて意見交換ができ、大変参考になりました。

いただいた御意見を参考にして、今後も市政について更に御意見をいただきやすい方法について工夫していきたいと思えます。

附 録

- とまレポワークショップ開催結果
- 平成26年度市政レポーター名簿
- 苫小牧市市政レポーター設置要綱

第1回とまレポワークショップ 開催結果

開催日：平成26年6月23日（月）
時間：開始13：00～終了15：00

（苫小牧市市民自治推進課 国際交流サロン）

テーマ： 「広報とまこまい」について
サブテーマ： 「あなたが読みたくなる『広報とまこまい』」

目次

(1) タイムスケジュール	p. 1
(2) ワークショップ前半（作業）「ポストイットワーク」のまとめ	p. 2
(3) ワークショップ後半（レビュー・ふりかえり）の要旨	p. 5
(4) ワークショップの様子	p. 9

(1)タイムスケジュール

時間	内容	詳細
13:00～13:05 (5分)	導入	あいさつ、趣旨の説明
13:05～13:15 (10分)	アイスブレイク (ウォーミングアップ)	「3つ選んで自己紹介」 参加者による1分間スピーチ
13:15～14:10 (55分)	ワークショップ前半 (作業)	「ポストイットワーク」 ①心得・進め方の説明(5分) ②意見を出し合う(45分) ③意見のグループ分け(10分)
14:10～14:15 (5分)	休憩	(ティーブレイク)
14:15～14:45 (30分)	ワークショップ後半 (レビュー)	①秘書広報課担当者からコメント ②意見交換
14:45～14:55 (10分)	ふりかえり	参加者による感想の発表
14:55～15:00 (5分)	次回予告	次回の予定について告知

(2)ワークショップ前半(作業)「ポストイットワーク」のまとめ

★ワークショップテーマ： 広報とまこまい (あなたが読みたいと思う「広報とまこまい」)

★ふせんの色ごとに問いの着眼点を変えて、意見を集約した。

青 ~ 『「広報とまこまい」にこんな記事がのってほしいな!』、「こんな工夫があったらいいな」というアイディ

黄 ~ レポーター個人が「読みやすさ」や「わかりやすさ」を感じるために、重要だと思う点

ピンク ~ レポーター個人が考える「よい」広報紙とは

グループA: 紙面づくりのポイント

まとめ	意見(ふせん)	ふせんの色
表紙に魅力があること	表紙がおしゃれで、中を読みたくなるようなセンスがほしい	青
	表紙に魅力があれば、手に取り、中を開ききっかけになる	黄
	表紙に「苦小牧の顔」を使う(例 スポーツ選手(オリンピック他)、表彰される人(叙勲)、最高齢者、三つ子ちゃん等)表紙の写真は市内の風景で行ってみたいくなるような場所をシリーズでやっても面白い(6月号のような写真裏の説明もよかった)	黄 ピンク
読者の世代を意識すること	どの世代も読みやすいこと	ピンク
	次世代のことを考えると、子供向けの内容(平仮名やイラスト)を交えた内容を含んでいること	ピンク
	子育て系の所を横書きに	黄
図や写真、カラーを活用して紙面を構成すること	今の若者世代は「縦書き・左開き」という段組になじみがないので、「横書き・右開き」というものに変更する。	黄
	桜並木の記事に地図をつける	黄
	「計画」等の類のものは、極力図示してイメージをつかみやすく	黄
	写真やイラストがたくさん使っていて、わかりやすい解説	黄
	ワンポイントのイラストがあってもいい	黄
字体(大きさ、色、太さ)による視覚効果を活用すること	コストの兼ね合いもあるが、写真はカラーで。	黄
	カラーになってから捨てがなくなってファイルして保存するようになったのは確か。(カラー効果のひとつではある)	黄
	「計画」等の類のものについて、担当部局長の写真入りで、簡単な説明等を入れる(身近に感じる、顔が見える化する)	黄
ページ数を少なくすること	もっと写真が載っているのがいいと思う(4才娘の意見です)	ピンク
	字体や字の大きさ、色で見る人の目も違うのでは	黄
	文字の大きさ。重要な所は太字など	黄
空白を生かす	文字が大きく、くつきり、はっきりで読みやすい	黄
	週刊紙のように、何が一番読んでもらいたいのか、色・文字の大きさを表紙に掲載しては	青
	ページ数が多いのでへらす	青
記事が探しやすいこと	ページ数をもっとすくなく	黄
	ページをへらす	ピンク
	ページ数にこだわるのもどうかと思う(かつて、タブロイド版見開きものの頃が一番見やすかった)	ピンク
記事の属性(ジャンル、対象者)が分かりやすいこと	レイアウトをもう少し考えるべきでは。文字ばかりでは、活字離れの世の中には合わなく、もっと空白があっても目を引くのではないか	黄
	必要なときに(情報が)すぐ取り出せる	黄
	どの記事はどこにどのようにのせるか、毎回固定する	黄
文章が簡潔で分かりやすいこと	雑誌風なもじなど、1ページでざっとココに何が載ってるよと分かりやすくする	黄
	サイトマップ(さくいん)を分かりやすくする	黄
	市からのお知らせ欄の見出しはひとつでよい(ページをまたぐ場合)	黄
情報が正確で明確であること	どこに何が書いてあるかのサイトマップをつける	青
	毎号掲載する記事をきめる(ゴミの分別は毎回でも良いと思います。例・「ヒント」みたいなコラムつきでも)	青
	スポーツ、福祉などを色分けでふちどり	黄
情報が正確で明確であること	対象年齢(募集項目の大体の年齢)別に文字の色分け(ココ、私向けかも!! って気付きやすいし、わかりやすいかな..と)	黄
	誰のための情報が、一目でわかる工夫(子育てママ、40才以上、20才以上男女)	黄
	簡素で分かりやすい文です	ピンク
文章が簡潔で分かりやすいこと	なにより分かりやすく簡潔なこと	ピンク
	文章が簡潔で、誰にでも理解しやすいこと	ピンク
	安易な文体で書かれていること	黄
情報が正確で明確であること	辞書(英和・漢字)を引かなくても理解できる内容であること	黄
	専門的、独特の表現を極力使わない。	黄
	情報が正確であること	ピンク
情報が正確で明確であること	情報(内容や日時、期限等)が明確である	ピンク

グループB: 紙面づくりのコンセプト

キーワード	意見(ふせん)	ふせんの色
「住民の視点」	住民の視点に立って書かれている(利用者にとってどうなっているのか、という風に)	ピンク
「便利」、「すぐわかる」	読めば便利だとすぐわかること	ピンク
「ないと不安」⇒「必要不可欠な情報源」	ないと不安になってしまうような広報紙	ピンク
「頼れる情報源」	今月の市内で行われるすべての講習会が判る等、頼れる情報源	ピンク
「新しい制度」、「いち早く」、「わかりやすく」	新しくスタートした取組や制度を、いち早くわかりやすく解説してある	ピンク
「タイムリー」、「多くの情報」、「わかりやすい」	月1回の発行なので、できるだけタイムリーに多くの情報を分りやすく提供する	ピンク
「重要なポイントに絞る」	毎日、新聞を読んでいます、読まない日はほとんどないと思います。では、毎日必ず読む箇所はどこでしょうか。広報は月刊なので、ポイントを絞った掲載を。	ピンク
「待ち遠しくなる」	次の号が待ち遠しくなる広報紙	ピンク
「後日読み返す」	後日読み返してみようかなって思えるもの	ピンク
「連絡帳+読み物」	連絡帳だけにとどまらず、読み物も!(+@)	青
「インターネット記事にはない利点」	インターネットでは伝わらない手に取って読むメリットがあること	ピンク
「まちを好きになる」	住んでいる街が好きになれる広報紙	ピンク
「まちがわかる」	どんな街なのかわかる広報紙	ピンク
「知らないことを教えてくれる」	知らないことを教えてくれる広報紙	ピンク
「明るい」	明るい紙面づくり	黄
「堅苦しくない」	堅苦しさがまだある気がします。全体的に。なので、もうちょつとカジュアルな方が読みやすいと思う。	黄
「フリーペーパー」、「手軽さ」	フリーペーパーのような手軽さがいい	青

グループC: 新しい工夫・仕組・活用法の提案

まとめ	意見(ふせん)	ふせんの色
ページをめくりたくなる工夫	クーポンまではいかなくとも、これを持っていくといいよ!みたいなものがついている。	青
	自分の家族や友人、隣人など知っている人が登場しているクイズに当選すると、苫小牧市のゴミ袋がもらえる・ゴミ袋引換券がもらえる(最寄のスーパー等で引き換え可)	青
	最終ページに景品付きクイズがある(例・今年の港まつりは何日からですか?~〇〇ページ参照 他)	ピンク
	広報で取り上げた記事の結果報告があったら良い	ピンク
次号が楽しみになる工夫	片方向の情報発信ではなく、双方向性(住民ニーズを加味した)のあるもの	青
	情報発信機能だけでなく、情報受信機能のあるもの(読者・市民の意見を受け付ける等)	ピンク
	今月号のよかった記事のアンケート・改善案も受け付ける(クイズの答えと一緒に記入してもらう)	ピンク
読者からの反応を受ける仕組	「まちのこえ」市側の発信が多く、市民側からの声を掲載すれば良いのでは	青
	広報の定期モニターを募集して声をきく	青
情報媒体としての活用法	市民会館、文化会館、アイビープラザ等、行事予定一覧を別紙1枚くらいにまとめて織り込んで配布できないか。(全戸対象の配布物なので、強力な情報発信ツールといえる)	黄

グループD: 載せてほしい記事・企画 ～まちの情報編～

まとめ	意見(ふせん)	ふせんの色
まちの歴史・文化・風習を探る	苦小牧の歴史を感じさせるスポットの紹介 今はなくなった建物や文化にスポットを当てる 「昔はこんなところに、こんな建物があった」 「こんなお祭りがあった」	青 青 青 青
まちの魅力を探る	心の風景はどんな場面？ 「とどけます 街の良いところ」もつとのせてほしい あなたが知ってる苦小牧の魅力 まちのいいところ 苦小牧を知るための魅力をさぐって！シリーズで	青 青 青
まちのイベント	今月の市内で行われるすべての講習会が判る等頼れる情報源 市内で行われる自然観察会の案内(市の主催でないものを載せられないかな～) FB通信に「これから夏に向けて、外で遊べるイベント情報をどんどん発信」するとある。広報誌にも同様の記事を望む(季節に応じたイベント情報)	ピンク 青 青
自治会に関すること	苦小牧市内の町内のいい所を順に紹介 町内会の紹介(若手役員の紹介、名物?役員の紹介)	青 青
子どもの活動に関すること	小学校やスポーツ少年団の特集(各団体を順次) 幼稚園・学校・職場の大きなイベントを掲載しては 運動会・入学式・学芸会等 市内学校共通行事の日程一覧	青 青 青
市内企業に関すること	市内企業の活動の紹介	青

グループE: 載せてほしい記事・企画 ～行政情報編～

まとめ	意見(ふせん)	ふせんの色
健康に関すること	健康に関する記事 市健康支援課健康増進係発 市民対象の健康教室参加者募集案内	青 青
統計に関すること	基本情報を毎回のせる(人口・広さ・面積・世帯・道内全国で何位とか 豆知識)	ピンク
ごみ排出マナー向上に関すること	053通信欄をもうける(ごみ収集の現場の人たちのインタビュー、市役所のまわりをゴミ袋を持って実際にゴミ拾いをしてみた感想→いろんな気付きがあるはず)	青
コストに関すること	コストに関する記事(例 市長選が〇〇円)	青
美術博物館に関すること	市美術博物館発 こども広報部の記者募集案内等	青
公園に関すること	小さい子どものいる家庭向けに市内の公園を紹介(大きい公園だけじゃなく、小さい公園も知りたいので)	青
とまチョップに関すること	とまチョップの出没予定	青
来庁者の利便向上に関すること	役所の混雑予報	青
市役所に親しみやすくなる内容	市役所の各部署の紹介 各部の部長さん談話欄で各部の活動紹介(市役所の仕組みや役割がわかる)	青 黄

(3)ワークショップ後半(レビュー・ふりかえり)の要旨

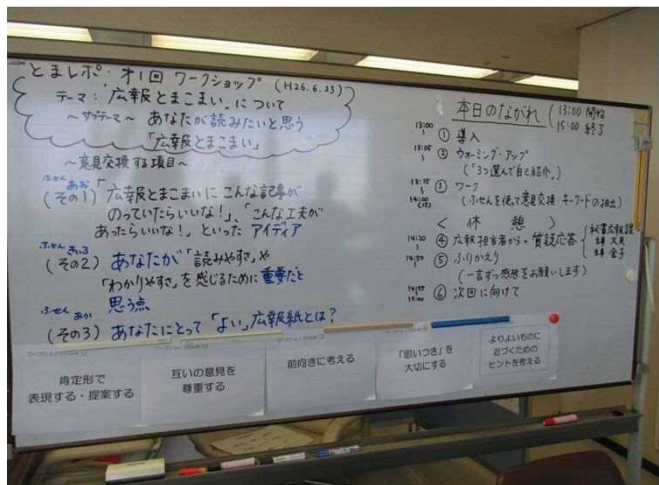
No.	分類	要旨	備考(回答等)
1	質問	タイトル(「広報とまこまい Tomakomai」)がローマ字になって、反響はどうか。	広報なんだから、日本語で書きなさいという意見もある。 製作者側の狙いとしては、垢抜けた雰囲気を目指している。 アンケートによると、年齢層の上の方には、読んでいただけている模様。 若者に読んでもらえる工夫をしたいと考えている。
2	質問	全国で評価を受けている広報紙にはどのような傾向があるか。	さまざまなパターンがある。 表紙の主流は写真1枚で魅せるスタイル。 去年は、構成が秀でていたところが最優秀賞を受賞していた。
3	質問	写真が大事という話があったが、専属のカメラマンはいるのか。 また、表紙について、設定しているテーマはあるか。	広報担当職員が写真撮影も行っている。 昨年度は「笑顔」に焦点を当てた。 今年4月号からは、人物以外にも季節のイベントに主眼を置いている。
4	提案	特に読んでもらいたいものを前の方に載せているのだろうと思う。 前の方に、読んでもらうための工夫はしてはどうだろうか。 例えば、朝日新聞の「しつもん！ドラえもん」コーナーのような。 新聞の一面に、紙面の内容に関するクイズがあって面白い。 人によっては、広報紙に何が載っているかわからないことがあると思う。 自分も交通事故死者数が広報とまこまいに載っている事は、今日参加するまで知らなかった。	
5	提案	表紙は媒体の顔なので、広報紙を印象づける共通のテーマを持つてはどうか。 例えば、雑誌「ザ・テレビジョン」なら、表紙の被写体がレモンを必ず持つような。 また、表紙のテーマを「顔」から「場所」に変えたなら、それを説明する必要があるんじゃないかと思う。 ものをつくるならば、作り手たちのポリシーや精神を変えないことが大切ではないかと思う。 変えることも大切かもしれないけど、積み重ねていくなかで培われていくようなものもあると思う。	

No.	分類	要旨	備考(回答等)
6	提案	知りたい情報が載っていること自体を知らないから、調べようとも思えないのでは。 載っていることをどうやってアピールするかが大切ではないか。 例えば、表紙にとまちヨッピーが掲載記事に関するクイズを出すコーナーをつくるとか。	
7	提案	夕張市の『「ふるさと」ゆうばり通信』がとても目を引く内容だったので、面白いかな、と思って持ってきた。参考にどうぞ。	
8	要望	参考までに評価の高い広報紙を見てみたい。	
9	意見	3月号まで表紙に目次として記事タイトルを載せていたけれど、あれは目次とは呼べないと思う。	4月号から中目次に変更となった。
10	意見	表紙に言葉と絵が載ると、絵が生きないと思うから、表紙から字がなくなったのは、いいと思う。	
11	意見	広報紙の全国コンクールについて、昨年は岩手の自治体が高い評価を受けていたと思う。 流行語になった「じぇじぇじぇ」などの地方弁がうまく使われていた。 タイトルを英字にするのもいいけれど、「苦小牧」という漢字は独特(だから、活かしてはどうか)。	
12	意見	いいものを真似ることは、いいことだと思う。	
13	意見	広報紙の製作側として、同じような悩みを抱えているだろうし、流行もあるだろうと思う。	
14	意見	読み物としてはシンプルな方がいい。	
15	意見	そもそも、活字に対して拒否反応を示す人が増えていると聞く。 まずは、1ページでも開いてもらえる工夫が大切なのではないか。	
16	意見	情報に対するスタンスが、世代によって違うと思う。 若い人は能動的に情報を探して、必要なものだけを受け取る。 年配の人は受身で、なんでも入ってくるものを受け取る。	
17	意見	読者層は幅広い年代で女性が多いのでは、と思う。 男性には、読者が極めて少ない世代があると思う。 女性の視点を活かすことが重要ではないかと思う。	

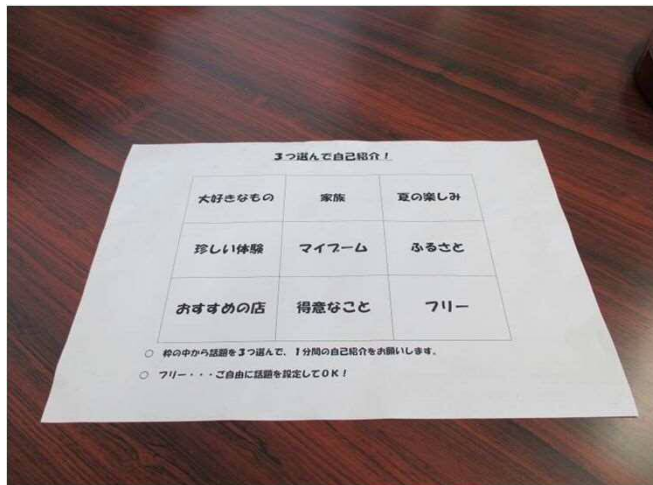
No.	分類	要旨	備考(回答等)
18	意見	振り返ってみると、自分が会社勤めをしていた頃は、読んでいなかった。妻は、町内会関連などで見ていたが、自分は退職後から読みはじめた。読者として感度が高いのは、お母さんたちじゃないかなと思う。例えば、子育てのこととか。	
19	意見	確かに、男性はあまり読んでいないかもしれない。自分の夫もあまり読まないのだから、自分が読んで、話題として記事の内容を共有することがある。また、何が載っているかわからないから、読まないのでは、と思う。読むきっかけがあれば、きっと読むと思うけれど、広報自体、「重たい」という印象があるのか、読まない。	
20	意見	奥さんの方がよく読むのかもしれない。総じて、女性が読む頻度は高いと言えるのではないかな。だからといって、女性向けのものを作ればいいというわけではないけれど。男性の場合、知りたいことがあれば、家族に聞くのではないかな。男性も単身者であれば、読む人もいるだろうけれども。	
21	意見	読者が固定化していると思う。子育て系のイベントに参加すると、広報を読む人と読まない人とが二分化しているのを感じる。インターネットでは拾えないイベント情報を広報で知ることが比較的よくある。広報を読まないお母さん方はイベント自体の存在を知らない。広報誌以外では口コミでイベントについて情報を集めている様子。	
22	意見	広報紙には有益な情報がずいぶん載っていると思う。読まないのはもったいない。	
23	意見	(情報収集手段について) 友達のいる人だったり、ひとりでもイベントに飛び込める人だったらいいけれど、なかなかそうじゃないことが多い。また、苦小牧は転勤する人も多い。	
24	意見	調べていない人に限って、「わからない」と文句を言ってるような気がする。	
25	意見	(『「ふるさと」ゆうばり通信』について) これはいいなあ。	
26	感想	市の事業も、奥深くいろいろと考えられているんだなあ、と思った。市の広報紙も、広報紙がきっかけで前進していけるようなものであったらいいな、と改めて思った。	
27	感想	もうちょっと行き詰るかな、と思ったけど、非常によかった。これを重ねて、少しずつ、羽ばたけるようになると思う。	

No.	分類	要旨	備考(回答等)
28	感想	ぜひ、お金を払ってでもほしいと思える 広報紙を作ってほしいと思う。 週刊紙や女性誌は、よく考えられて作 られているなあと思う。 少しでも読んでもらえるものを作ってほ しいと期待する。	
29	感想	たくさんの意見があって、楽しい時間にな ったと思う。 でも、これがどんな形で、広報の改革 につながっていくか。 意見が役立てば、本当にうれしい。次 回が楽しみ。	
30	感想	もっと固い感じで大変かな～と思って いたけれど、意外と楽しくて、いろんな 人の意見を聞いて楽しかった。	
31	感想	団塊の世代が世の中で一番声が大き く、多数決で勝つ世代。 でも、実際は、70代くらいの方や40代 の方で、特にお母さん方の声が大切か な、と思う。	

(4)ワークショップの様子



ホワイトボード



"ウォーミングアップ"～「3つ選んで自己紹介！」



集約



広報とまこまいの移り変わり



集約結果

第2回とまレポワークショップ 開催結果

開催日：平成26年10月23日（金）
時間：開始13：00～終了15：05

（苫小牧市市民自治推進課 国際交流サロン）

テーマ： デジタルな情報発信について
サブテーマ： 活用されるホームページとフェイスブックについて考える

目次

(1) タイムスケジュール	p. 1
(2) ワークショップ（ふせんワーク）の要旨	p. 2
(3) ワークショップ（ふりかえり）の要旨	p. 6
(4) ワークショップの様子	p. 7

(1)タイムスケジュール

時間	内容	詳細
13:00~13:05 (5分)	導入	あいさつ、趣旨の説明
13:05~13:20 (15分)	アイスブレイク (ウォーミングアップ)	「1つえらんで1分間スピーチ」 参加者による1分間スピーチ
13:20~13:45 (25分)	ワークショップ前半 (説明)	広報担当者からの説明 ①ホームページリニューアルについて ②フェイスブックの運用状況について
13:45~13:50 (5分)	休憩	
13:50~14:50 (60分)	ワークショップ後半 (ふせんワーク)	①意見交換 ②広報担当者のコメント
14:50~15:00 (10分)	ふりかえり	参加者による感想の発表
15:00~15:05 (5分)	次回予告	次回の予定について告知

(2)ワークショップ(ふせんワーク)の要旨

★ワークショップテーマ： デジタルな情報発信（活用されるホームページとフェイスブックについて考える）

(略)HP=ホームページ FB、F=フェイスブック

まとめ	情報媒体			発言内容(ふせん)	区分
	HP	FB	その他		
現状に対する印象	<input type="radio"/>			奇異な感じはしない 普通のホームページ	意見
	<input type="radio"/>			HPのトップページをひと目見た感じは「がんばってるナ」	
	<input type="radio"/>			最初硬い印象を受けました	
		<input type="radio"/>		フェイスブックはよく更新しているイメージ	
		<input type="radio"/>		(FB)頻繁に更新されている印象。	
		<input type="radio"/>		ケイタイ(スマホ)から見るとトップの絵、イラスト?が地味。	指摘
		<input type="radio"/>		市長の顔写真入り「市長室へようこそ」は親しみやすい	評価
		<input type="radio"/>		HPでとまチョップバージョンに切り替えられる点がおもしろい。	
		<input type="radio"/>		(FB)市職員は業務の一部?(自主的?強制?)がんばってる!	
		<input type="radio"/>		カラフルで綺麗な感じ	
		<input type="radio"/>		(HP)観光客用のページが使いやすい	
		<input type="radio"/>		FBの記事を見てイベントに行ったりと情報に助けられている。	
現状の分析	<input type="radio"/>			情報の多さはHPが優位	意見
	<input type="radio"/>			閲覧の割合は?市民とそれ以外	質問
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		札幌市など他市の現状は?	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		情報のバックアップはどのようにしているのか?	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		HPとFBの活用の仕方の違いは何?	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		広報紙とHP、FBの関係 将来はどうなるの?	
		<input type="radio"/>		(F)の意味は何?目的は?	

まとめ	情報媒体			発言内容(ふせん)	区分
	HP	FB	その他		
ほしい情報	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		年齢層により、大きく内容が、変化するのでは？ 例えば、20～30代(40代含)(子育て、教育、結婚、離婚、就職等)、50～60代～？(健康、介護、医療等)、世代により、見方変わる？	意見
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		市行事だけではなく、広く街のイベントやお祭り情報がほしい	
	<input type="radio"/>			新規に転入してきた市民向け専用画面で市内を案内する感じの画面	
	<input type="radio"/>			[HP]「まちのできごと」に苦小牧マラソン大会が出ていたが、参加者の順位表とかも載せてほしい	
	<input type="radio"/>			[HP]「ふるさと納税」過去の実績を知りたかったが見つけれなかった	
	<input type="radio"/>			[HP]「苦小牧概要」 気象はH24年度だけではなく過去の最高気温35.5℃とか最低-21.3度とかの極値も知りたい	
	<input type="radio"/>			[HP]「ふるさと納税」 以前、例のあった夕張市のような簡易紹介や特典がほしい。広報とまこまい1年間送付だけでは寂しくないか？	
	<input type="radio"/>			HP来訪者数が判れば面白い	
	<input type="radio"/>			幌内川の水位情報がHPで判るらしいのだが、探しても判らない。全情報一覧があればよい	
		<input type="radio"/>		市の各課の日常業務をもっと市民に知ってもらうためのFB投稿も必要と思う	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		新聞、広報を読まない若年層には、ホームページ、フェイスブックは、大変利用度は高いが、必要な内容？	指摘
	<input type="radio"/>			ごみ分別に興味があり、開いてみたら具体的に書かれており、良かったです	評価
		<input type="radio"/>		フェイスブックは市役所の事だけでなく、美術館、支援センターなどのことがのっていいと思う。	
災害時の活用	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		いざというとき、HPやFBも対応できるようにしてほしい。	意見
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		災害時のHP、FBの活用を期待する。	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		(9/11の大雨)事後の説明をのせるのも有用	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		災害はケース・バイ・ケースだが、今後のために生かして、緊急時にHP、FBも備えてほしい	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		災害時(樽前山、津波)、市からの情報発信を期待する	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		普段あまり利用していないが、災害時の活用に期待	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		前もっての予測情報(災害)の発信を構築してほしい	
	<input type="radio"/>			議会報告にあった「災害時の電話連絡先」のようなものが参考になった。	
	<input type="radio"/>			災害時の情報は大きく掲載(中央に大げさな位)した方がいい(HP)	
	<input type="radio"/>			各学校毎の緊急メール配信の登録方法を教育委HPに掲載する	
	<input type="radio"/>		メール	(緊急事態)災害時の休校情報がほしい(メール配信、HPなど)	
			メール	災害時のメール配信の活用は？	

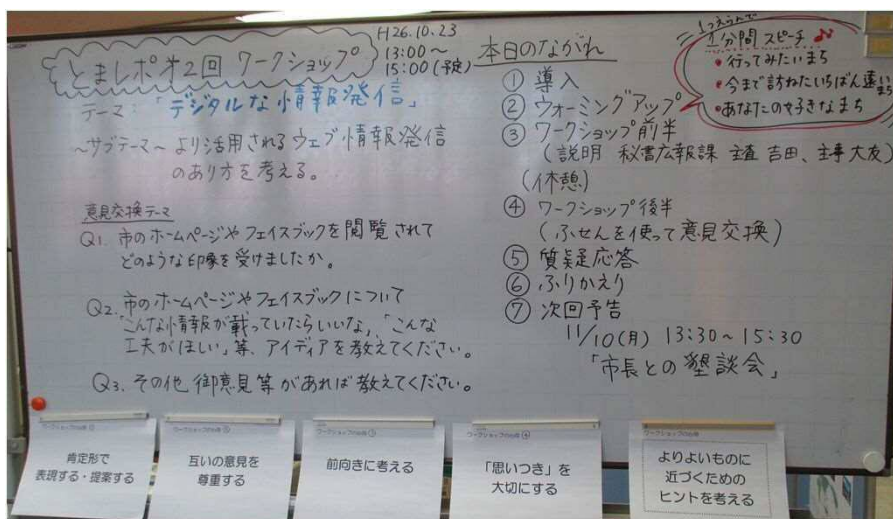
まとめ	情報媒体			発言内容(ふせん)	区分
	HP	FB	その他		
わかりやすさ		○		フェイスブックの投稿する文章はみじかく分かりやすくていいと思う。長いとあんまりよまないの。。(とまチョップのはみじかくて分かりやすくていいですね)	意見
		○		フェイスブックの投稿の文章が長いなーと思うものがある。	指摘
見やすさ	○	○		広報より明るく具体的に表されていて良いが、老人には無理かも	指摘
	○			字が小さい	
	○			市のホームページは下にながいが(ケイタイからみたとき)。下までスクロールはほとんどしなくなっちゃうのもっと上の方にカラフルな色でカテゴリ分けや大事なことをのせてほしい	
	○			画面によってリンクの文字が小さい所があり、年配の方は苦労しそう	
	○			市のホームページはケイタイ(スマホ)からなんだか見づらい分かりづらい。	評価
	○			[HP]トップページ 割合スッキリして見やすいと感じた	
	○			TOPページはコンパクトにまとまっていて、見やすい。(HP)	
	○			くらしの手続きのアイコン表示がわかり易い	
		○		とまチョップのフェイスブックはかわいいし、見やすい。	
情報の探しやすさ	○			転勤族が多いまちなので、転入者に必要な「くらしの情報」が一目でわかるとよい。	意見
	○			ほしい情報がすぐ出てくるシステム(音声入力?)	
	○			各課の電話番号をトップページにのせる。	
	○			情報の速さは電話が優位⇒電話番号を調べやすいようにしてほしい	
	○			〇〇の時は〇〇課という一覧とフロアマップを掲載しておく(せっかく窓口を色分けしているので)	指摘
	○			市のホームページのケイタイ(スマホ)から見たとき、カテゴリ分けをもっと色でも分けた方がわかりやすい	
	○			大量のデジタル情報の案内窓口が有ればよい。(それがHPでもよい)	
	○			HPが苫小牧関連のすべての情報の窓口とする	
	○			[HP]トップページ お知らせで「ペルパングーナ警報発令」とあるが、リンクをたどっていかないと内容が判らず不親切と感じた	
	○			(私の検索の仕方がヘタなのかもしれませんが・・・)スマホから市の事で調べたいことがあるのになかなかそこまで見つからない。。	
○			情報項目は多いが雑然と配置されている感じ		
○			情報は多いのだが、どんな情報がどこにあるのかが一目で判る工夫		
リンクの活用		○		市立病院等、市の機関のFBに簡単にアクセスできるようにする(FBで)	意見
		○		FBをスマホ等で見る人向けに、モバイルの市のHPリンクの紹介があると、見る人が増えるのではないか。	
	○			くらしの手続きのアイコン以外はテキストでのリンクが多い	
	○			関連団体(社協、体協等)のリンクがあっても良いと思う。	
	○			とまレポ活動報告書等関連情報にリンクしている	
	○			各種審議会の報告書にリンクしている	
	○			HPでリンク切れがある(リニューアルの際?)	

まとめ	情報媒体			発言内容(ふせん)	区分
	HP	FB	その他		
双方向性		○		記事に対するつぶやき書き込めるとよい	意見 指摘
		○		FBにコメントしても一切返信がない。	
		○		FBは記事をupしたら必ず返信する！今はコメント返しがなくスルー。	
		○		FBに記事をupしたら、市民のコメントに対して必ず返信する！スルーはマナー違反では。	
利用環境の差への配慮	○	○		F/Bは登録していないと見れないので、F/Bだけに情報がかたよらないようにした方がいい	意見
	○	○		ほとんど使ったことがない。(HP、FBともに)	
	○			視覚障がいのある方向けの音声読み上げ機能(HP)	
			広報紙	HPを見られない人には、広報紙を柱とした情報発信がよい	
個人情報への配慮		○		FBで記事をupする時、担当者の名前がカタカナ。漢字でフリガナつけるやり方はNGなのか？	質問
		○		FBで個人が特定される写真がupされている。子供の写真は保護者の許可をとっているのだろうか？	
画像の活用		○		フェイスブックは写真が目について字をよむというパターンが多いので文章までよみたいと思う写真にする。	意見
		○		F/Bは、写真が多用されていて、情報発信力がとてもあると思う	評価
情報の鮮度	○			情報処理のスピードが遅いのはデジタル情報利用の上では致命的常に最速であるべし	意見
	○			VOL.NOがあると更新された新しい情報が判りやすい	
	○			25年度とまレポ活動報告書がいまだに作成中になっている。常に最新版が大切	指摘
	○			日付入りの情報があるので情報の新鮮さを感じる	評価
新しい工夫	○	○		市長からの「苫小牧にPR動画」をHP/FBに掲載する	意見
	○			若者や年配の方でも気軽にHPにアクセスできるよう、QRコードの掲載やブラウザの起動の仕方からの説明会を行う	
		○		(F)「いいね」の別の表現がほしい	
		○		とまチョップ専門の(F)日記が読みたい	
		○		FBの内容を市役所のロビーなどで常時閲覧できるようにする	
			メール	各種申し込みや手続きがメールでできる	
			twitter	twitterの利用は？	
				NHKの「PRさん1号」(本)を参考にしては・・・	
アイデア	○	○		自治体のPRとして・・・	意見
	○	○		内容は充分満たしているのでは？さらなる活用術のイメージわかない。	

(3)ワークショップ(ふりかえり)の要旨

No.	分類	要旨
1	意見	インターネットは情報量が多いが、中には陳腐化して使わないものもある。情報の速さは、電話して市役所に直接問い合わせるのが一番だと思うので、ホームページに電話番号表を掲載しておくのも大切ではないか。
2	提案	市からのメール配信による情報発信も有用だと思う。災害時の活用を考えてはどうか。
3	意見	災害時、市独自のインターネットの活用や対策が欲しい。自分の町や町内について、情報発信できるのは市だと思う。いざという時の備えとして、ホームページもフェイスブックも、市独自のものを構築してほしい。
4	意見	(9月の大雨の際、)防災ラジオのアナウンスに緊迫感がなくて、違和感があった。
5	意見	(9月の大雨の際、)小学校の休校情報が大変必要だと感じたときに、ホームページなどを見た。
6	意見	緊急事態の際、手がかりを求めて、ホームページは頼りにされている。ホームページやフェイスブックにはそういう役目があると思う。
7	意見	9月の大雨で休校情報が流れなかったのには、降雨量の強くなった時間が登校時間と重なり、ストップをかけるにもかけられない時間だったことがあると思う。事後説明を、発信しても遅くないのではないか。
8	意見	災害は、ケース・バイ・ケースだと思うが、今回の反省を生かして、今後のために前進してほしい。
9	意見	災害について、前もって何か発信する方法を構築してほしい。空振りなら空振りで「なーんだ」という声があるかもしれないが、安心ができる方がいいと思う。
10	意見	市の情報発信のあり方として、広報紙を柱にして、その他のツールで補っていくのがいいと思う。
11	意見	苫小牧市は転勤で住むことになる人が多いので、引っ越してきた人が生活に必要な情報が得やすくなるといいと思う。
12	意見	フェイスブックでの情報発信のポイントを「子育て・イベント・危機管理情報」としているのは、的を射ていると思う。
13	意見	今後、災害時のホームページやフェイスブックの活用を期待する。

(4)ワークショップの様子



ホワイトボード



ワークショップ前半(ホームページとフェイスブックの閲覧)

デジタルな情報発信

活用されるホームページとフェイスブックについて考える

現状に対する印象

現状に対する印象に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

情報の探しやすさ

情報の探しやすさに関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

リンクの活用

リンクの活用に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

現状の分析

現状の分析に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

双方向性

双方向性に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

利用環境の差への配慮

利用環境の差への配慮に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

ほしい情報

ほしい情報に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

個人情報への配慮

個人情報への配慮に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

画像の活用

画像の活用に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

情報の鮮度

情報の鮮度に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

災害時の活用

災害時の活用に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

新しい工夫

新しい工夫に関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

見やすさ

見やすさに関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

わかりやすさ

わかりやすさに関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

アイデア

アイデアに関するアイデアが詰まったノートが複数枚貼られています。

N25.10.23
とまほワークショップ
(第2回)

情報の発信の件
集まる ホームページフェイスブックの構築
集まる ほしい情報や工夫のアイデア
集まる その他意見
集まる 意見書



集約結果

平成26年度市政レポーター名簿

(50音順、敬称略)

	氏 名	選任区分
1	石川 悦子	公 募
2	楠 寿徳	
3	杉野 啓志	
4	中西 玄一	
5	松井 孝子	
6	松原 承子	
7	松本 静男	
8	山田 美恵子	

任期：平成26年5月1日から平成27年3月31日まで

苫小牧市市政レポーター設置要綱

(目的)

第1条 市政の重要な取組について、広く市民の参加を求めて理解を深めるとともに、意見、提案等を聴取し、市政運営の参考に資することを目的として、苫小牧市市政レポーター（以下「レポーター」という。）を設置する。

(職務)

第2条 レポーターの職務は、次のとおりとする。

- (1) 市政の特定事項に関する事業に積極的に参加し、意見、提案等を行うこと。
- (2) 市長懇談会や必要な会議等に参加すること。
- (3) その他、市長が必要と認めること。

(資格)

第3条 レポーターは、市内に住所を有し、市政に対する理解と協力の意思がある18歳以上の者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当するものを除く。

- (1) 高校生または高等専門学校3年生以下の者
- (2) 地方公共団体の議会議員
- (3) 公務員
- (4) 市政モニターを含めて、レポーターの経験が2期を超える者。

(定数)

第4条 レポーターの定数は、10人以内とする。なお、欠員が生じたときは補充しない。

(任期)

第5条 レポーターの任期は1年（委嘱の日から翌年3月末日まで）とする。

(委嘱)

第6条 レポーターは、公募に応じた者の中から、年齢、性別、地域、職業等を考慮し適当と認める者を選出し、市長が委嘱する。

(委嘱の取消)

第7条 市長は、レポーターが次の各号のいずれかに該当するときは委嘱を取り消すことができる。

- (1) 市内に住所を有しなくなったとき。
- (2) 第3条第2号から第4号のいずれかに該当することになったとき。
- (3) 辞任の申し出があったとき。
- (4) 前各号のほか、市長が取り消しの必要があると認めたとき。

(謝礼)

第8条 レポーターの職務を遂行した者には、年間5,000円の謝礼金を支払うものとする。

(意見等に関する処理)

第9条 レポーターから提出された意見、提案等は、担当部課へ回付し、検討のうえ市政運営の参考に資するとともに、活動報告書として取りまとめ、市のホームページ等で公開する。

(事務局)

第10条 レポーターに関する事務は、総合政策部政策推進室市民自治推進課において処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、レポーターに関し必要な事項は、そのつど市長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 苫小牧市市政モニター設置要綱（平成18年4月1日改正）を廃止する。

